



## News Release

2024 年 10 月 16 日

DEI をさらに強かに推進し、新たな価値の創出をめざす

### ヘンケルジャパン、日本におけるビジネス 70 周年をお祝い

ドイツの化学・消費財メーカー ヘンケルの日本法人ヘンケルジャパン株式会社(本社:東京都品川区、代表取締役社長:浅岡 聖二)は、2024 年に日本進出 70 周年を迎え、2024 年 9 月 30 日(月)には 70 周年を記念したイベントを開催しました。



### 日本進出から 70 年、多様な文化を受け入れながら事業を拡大

1876 年にドイツで創業したヘンケルは、1954 年、日本に代表事務所を設立し、1996 年に社名をヘンケルジャパン株式会社に変更しました。2008 年ヘンケルは、ナショナルスターチ社が所有していた接着剤事業と電子材料事業を引き継ぎ、2023 年の資生堂プロフェッショナルのアジア太平洋地域におけるプロフェッショナルビジネスの買収など、日本で数々の M&A を経て多様な文化を受け入れながら事業を拡大し、アドヒーズブ テクノロジーズ(接着技術)事業と、ビューティケア事業(現在はコンシューマーブランドに事業部名変更)の 2 本柱で着実に成長を遂げてきました。

ヘンケルジャパン代表取締役社長の浅岡は、「ヘンケルは日本市場に参入して今年で 70 年を迎えます。これまで多くの先人たちによって信頼と実績が築かれてきました。これからは多様で個性輝く私たちの手でその財産を発展させ、さらなる成長を遂げていきます。世の中の動向やマーケットが激しく変化する中で、世の中から要求されることが変わるというのは、今も 70 年前も一緒です。



その時その時のマーケットの変化や要望に対して、色々な努力やチャレンジをしてきた結果、その積み重ねが今日につながっています。今、世の中から要求されているもの、マーケットに対して我々が考えるべきことの一つが DEI であると考えます。さらに DEI を推進し、グローバル社会の中での競争力を強化していきたいと思えます」と述べました。

## DEI をさらに強力に推進し、新たな価値を創出

現在ヘンケルジャパンでは、東京・天王洲の東京本社をはじめ全国 10 の拠点で、15 の国籍からなる 800 名以上の社員が働いています。ヘンケルはダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン (DEI) を重視する企業文化は、創造力とイノベーションの大きな原動力になると考えています。経済のグローバル化が進み、多様化した顧客ニーズに対応した商品開発やサービス提供をし、競争力の強化をするためには、日本においても DEI のさらなる推進が急務であると捉えています。

## 2024 年 9 月 30 日(月)にロバート キャンベル氏を招いて 70 周年記念イベントを開催

ヘンケルジャパンでは、日本進出 70 周年を記念したイベントを、2024 年 9 月 30 日(月)、東京・天王洲にある東京本社の「ASK Academy TOKYO」で開催しました。世の中的にも会社としても DEI の重要性が増す中で、社員が DEI や国際性に関して新たな学びやインスピレーションを得る機会とするべく、ゲストには、長らく日本で日本文学の研究を続け国際的なバックグラウンドを持ちながら、DEI をはじめ幅広い分野に精通し近年ではテレビでコメンテーターとしても活躍するロバート キャンベル氏をお招きし、代表取締役社長の浅岡とのトークセッションを行いました。



トークセッションの中でキャンベル氏は「DEI は日本でも経営上の課題になっているのはまちがいません。DEI は総論においては非常に重要な正しいことで、経営上も収益につながるということが立証されているわけですが、やり方によっては逆効果になることもあるので、日本における DEI とはどのようなものなのか、ヘンケルジャパンにとって、どういう風に進めていくのか、どういうところに思わぬ障害があるのかということ、話し合っ精査して行すべきことだと思います」と、DEI の重要性や難しさについて語りました。キャンベル氏の話を受け浅岡も「社内で DEI の話をする時は、マイノリティの方にプレッシャーを与えるようなものであってはいけないという話はしています。皆さんが安全に公平に自分の能力を出せる場所、それを例えばジェンダーであったり、それ以外の他の多様性に関して差別がなく、そういう場所を提供できる、そういう職場において 1 人ひとりの皆さんの

多様性が力を発揮して、結果的にそれが会社の力になるというところを我々はめざしています」と、当社がめざすべき方向性について力強く語りました。



イベントに参加していた社員はキャンベル氏に直接質問をさせていただく機会もありました。社員からは「ニューロダイバーシティ採用についての考え方」や「生まれつき持った思考性の違いを個性として活かす環境はどのようなものか」などの質問があり、キャンベル氏から非常に示唆に富んだ多面的な解答をいただきました。このようなインタラクティブなコミュニケーションを通じて私たちは DEI に関する知識をさらに深めることができました。

イベントには、オンライン参加も含む 150 名以上の社員が参加し、キャンベル氏と浅岡の話を真剣に聞き、DEI に関して多大なインスパイアを受けている様子でした。

#### ヘンケルについて

ヘンケルはブランド、イノベーション、テクノロジーにより、産業およびコンシューマー向け事業において世界中の市場をリードしています。アドヒーズテクノロジーズ(接着技術)事業部門は接着剤、シーリング剤、機能性コーティング剤市場のグローバルリーダーとなっています。コンシューマーブランド事業部門は特にランドリー&ホームケアやヘアの分野において、世界中の市場やカテゴリーをリードする地位を維持しています。ヘンケルには 3 つの強力なブランド、LOCTITE(ロックタイト)、Persil(パーシル)、Schwarzkopf(シュワルツコフ)があります。2023 年度の売上高は 215 億ユーロを超え、営業利益はおよそ 26 億ユーロでした。ヘンケルの優先株は、ドイツ株式指数 DAX のリストに入っております。ヘンケルには長いサステナビリティの歴史があり、具体的な目標を掲げた明確なサステナビリティ戦略を推し進めます。1876 年に創業したヘンケルは現在、世界に約 48,000 名の社員を擁し、多様なチームが強固な企業文化、共通の価値観とヘンケルの社員をひとつにまとめる共通基盤である企業目的「Pioneers at heart for the good of generations」の元に結束しています。さらなる情報はこちら [www.henkel.com](http://www.henkel.com) をご覧ください。

ヘンケルジャパンホームページ: <http://www.henkel.co.jp>

ヘンケルジャパンフェイスブックページ: <http://www.facebook.com/HenkelJapan>

— 本件に関する報道関係者からのお問合せ先 —  
ヘンケルジャパン株式会社 広報室 小野尾 秀美  
TEL: 03-5783-1219 (広報室代表) / Mobile: 070-1548-4840 /  
Email: [hidemi.onoo@henkel.com](mailto:hidemi.onoo@henkel.com)

## <参考資料:ヘンケルジャパン 70 年間のマイルストーン>

- 1954 年 日本に代表事務所設立
- 1996 年 ヘンケルジャパン株式会社に社名変更
- 2000 年 山発産業株式会社(後にシュワルツコフヘンケル株式会社となり、2016 年にヘンケルジャパン株式会社に合併)を買収
- 2002 年 ヘンケルロックタイト・テクノロジーセンター・アジアパシフィック(現横浜/アジアパシフィック技術センター)を横浜市磯子にオープン
- 2003 年 プロフェッショナルヘアアカデミー「ASK Academy Tokyo」を東京・汐留に設立
- 2008 年 ヘンケル社によるナショナルスターチアンドケミカル社の接着剤および電子材料事業買収に伴い、日本エヌエスシーの接着剤事業と日本アチソンを統合し社名をヘンケルテクノロジーズジャパン株式会社に変更、日本エイブルスティック株式会社はヘンケルとして展開
- 2009 年 ヘンケルジャパン株式会社とヘンケルテクノロジー株式会社が合併。日本エイブルスティック株式会社はヘンケルエイブルスティックジャパン株式会社に社名変更
- 2016 年 「ASK Academy Tokyo」を東京・天王洲に移転
- 2021 年 磯子ショールームオープン
- 2022 年 資生堂のアジア太平洋地域におけるプロフェッショナルヘアビジネスを買収。資生堂プロフェッショナル株式会社がヘンケルグループに加わる
- 2023 年 J-beauty innovation hub を東京にオープン
- 2024 年 日本進出 70 周年

### ▼ヘンケルジャパン東京本社(天王洲)



### ▼ASK Academy(天王洲)



### ▼アジアパシフィック技術センター/磯子ショールーム



### ▼J-beauty innovation hub(天王洲)

